

認識様相の表出主義と義務様相の表出主義

水谷 亮介 (Ryosuke Mizutani)

九州大学人文科学研究院

表出主義とは本来「べき」や「よい」などの規範語についてのメタ倫理的立場であるが、近年、規範語以外のさまざまな言語表現に应用が試みられており、とりわけ認識様相の表出主義——「……かもしれない (might)」という認識様相文の意味は心的状態の表出の観点からこそうまく説明されんとする立場——は説得力のある理論として知られる。本発表の目的は、認識様相の表出主義の議論で得られた知見を元のメタ倫理的表出主義へとフィードバックすることで、メタ倫理的表出主義をより精緻なものへと改善し、フレーゲ＝ギーチ問題への応答を試みることにある。

フレーゲ＝ギーチ問題とは、表出主義では意味の合成性をうまく説明できないという問題であり、表出主義の最大の足枷として知られる難問である。ギバードは可能世界意味論を応用した独自の形式意味論を考案し、この難問に対する説得的な解決策を提出した (Gibbard 2003)。しかし、この解決策には欠点が指摘されている (Schroeder 2008)。私の考えでは、この指摘はギバードの形式意味論に対する決定的な反論とまでは言えないものの強力な反論の一つにはなっている。

以上のことを背景として、本発表ではまず、認識様相の表出主義 (Yalcin 2007, 2012; Charlow 2015) がもし正しいとすると、ギバードの形式意味論に対するもう一つの反論が得られると指摘する。

次いで本発表では、ギバードの形式意味論に代わる新たな表出主義的形式意味論はどのようなものでありうるかを、やはり認識様相の表出主義を手がかりに構想する。ヤルシンとチャーロウは両者とも、認識様相と義務様相に対する表出主義的な形式意味論を提示している。だがヤルシンの意味論はその枠組みとして真理条件意味論を採用しているために、メタ倫理的表出主義の基本思想とは相容れないように思われる。チャーロウの意味論は更新意味論 (Veltman 1996) を利用するため非記述主義的な形式意味論にはなっているものの、果たして「表出主義」の名に値するかは疑わしい。

以上の考察を踏まえて本発表では、Lin (2015) や Hawke & Steinert-Threlkeld (2020) が提案する受容可能条件意味論 (acceptability conditional semantics) が表出主義の形式意味論として適当であると主張する。ただしこれら先行研究では、この意味論で扱われるのは認識様相のみである (義務様相に対するわずかな言及はあるものの、十全に取り上げられてはいない)。そこで本発表では、義務様相を扱うための受容可能条件意味論の拡張の方法を具体的に示すとともに、否定・選言・条件法のうちに埋め込まれた規範文 (すなわち、義務論理の論理式で書くならば、 $\neg OA$ 、 $OA \vee OB$ 、 $OA \rightarrow OB$ などの文) の発話によっていかなる心的状態が表出されることになるかを明らかにして、フレーゲ＝ギーチ問題への解答とする。

参考文献

- Charlow, Nate (2015). Prospects for an Expressivist Theory of Meaning. *Philosophers' Imprint* 15:1-43.
- Gibbard, Allan (2003). *Thinking How to Live*. Cambridge: Harvard University Press.
- Hawke, Peter & Steinert-Threlkeld, Shane (2020). Semantic Expressivism for Epistemic Modals. *Linguistics and Philosophy* 44 (2):475-511.
- Lin, Hanti (2015). The Meaning of Epistemic Modality and the Absence of Truth. In *Structural Analysis of Non-Classical Logics: The Proceedings of the Second Taiwan Philosophical Logic Colloquium* (pp. 111-130). Berlin, Heidelberg: Springer Berlin Heidelberg.
- Schroeder, Mark (2008). How Expressivists Can and Should Solve Their Problem with Negation. *Noûs* 42 (4):573-599.
- Veltman, Frank (1996). Defaults in Update Semantics. *Journal of Philosophical Logic* 25 (3):221 - 261.
- Yalcin, Seth (2007). Epistemic Modals. *Mind* 116 (464):983-1026.
- Yalcin, Seth (2012). Bayesian Expressivism. *Proceedings of the Aristotelian Society* 112 (2pt2):123-160.